

循 環 器 学

【単位数：3単位，授業42コマ，予備3コマ(定期試験含まず)】

当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

1 科目責任者

天野哲也 教授(循環器内科)

科目担当者

松山克彦 教授(心臓外科)

児玉章朗 教授(血管外科)

2 教育目標

(1) ねらい(Ⅲ-3-b, Ⅲ-4-b, Ⅲ-5-a)

- ① コンピテンスの「医学知識と科学的探究心」を修得するために、循環器系疾患の病態，検査，診断，鑑別診断，治療を論理的思考に基づいて説明できる能力を養う。また，これらの学習過程において，自ら学修目標を設定し，継続的に学び，その成果・知識を他者と共有することを通じて，「プロフェッショナリズム」の涵養を図る。
- ② 循環器(心血管)系の構造と機能を理解し，疾患の適切な治療，最新の治療を理解し説明できる。

(2) 学修目標

- ① 主要な循環器系症候をあげ，それを説明できる。
- ② 心不全の原因疾患と病態生理を説明できる。
- ③ 虚血性心疾患の病態生理，症候，診断と合併症を説明し，治療を概説できる。
- ④ 不整脈の診断，対処法を説明できる。
- ⑤ 動脈・静脈疾患の病態を理解し，適切な治療法を説明できる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

| | 成績対象 | 割合 | 方法・コメント |
|------|------|-----|---------------------------------|
| 定期試験 | ○ | 90% | 多肢選択問題 |
| 小テスト | ○ | 10% | アクティブ・ラーニングの際に多肢選択問題の小テストを実施する。 |
| 態度 | ○ | — | 受講態度が不良の場合は，10点を限度に減点をする。 |

出席： 定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

定期試験で60%未満の場合は，再試験を実施する。再試験は定期試験に準ずる方法で実施する(60%以上で合格)。ただし，再試験並びに追試験では記述式の場合がある。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

試験で正解率，識別指数が著しく不良な問題は解説を公開する。

4 教科書

| 書名 | 著者名 | 出版社 | 教科書として指定する理由 |
|------|-----|-----|--------------|
| 配付資料 | | | |

5 参考図書

| 書名 | 著者名 | 出版社 | 参考図書とする理由 |
|-------------|-----------------------------|-----------------------------------|---------------------------|
| ハリソン内科学 第5版 | 日本語版 監修 福井次矢, 黒川 清 | メディカル・サイ エンス・イン ターナシヨナ ル | 内科学のスタンダードとして過不足なく 良質。 |

6 準備学習（予習・復習）

内科は小テストを行うので必ず予習をする。アウトラインの分かりやすい参考書でもかまわないので各項目を勉強しておくこと(1日あたり約2時間)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

基本的に講義室での知識伝達型の講義であるが、内科は一部、講義室で小グループ討論や講師との質疑応答などのアクティブ・ラーニングを行う。

血管外科は通常の講義方式。

(2) 講義の内容

アクティブ・ラーニングの内容は、

- 1 初めに小テストを行う。小テスト中は電子媒体通信機器の使用は禁止とする。他人の答えを覗くことはもちろん禁止。
- 2 小テストの問題を自己で学習する。解答の理由づけに重きを置いて広く深く学習する。不正解の解答選択肢についても学習する。
- 3 少人数グループを編成しグループ内でそれぞれが問題の解説をする。グループ内で質疑応答をし、問題理解の質を向上する。
- 4 学年全体で質疑応答をする。